

公益財団法人石巻市芸術文化振興財団

- (1) 情報公開シートⅠ（P D C Aサイクルシート）
- (2) 情報公開シートⅡ（財務諸表等）
- (3) 情報公開シートⅡの補足資料
- (4) 市が期待する役割、市意見書等
- (5) 定款又は寄附行為
- (6) 役員名簿
- (7) 事業報告書
- (8) 損益計算書又は正味財産増減計算書
- (9) 貸借対照表
- (10) キャッシュ・フロー計算書（収支計算書）
- (11) 財産目録
- (12) 事業計画書

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

1 作成年月日・市所管部署

作成年月日	平成 30 年 7 月 10 日
-------	------------------

市所管部署	石巻市 教育委員会生涯学習課
-------	----------------

2 法人名称等

法人名称	公益財団法人石巻市芸術文化振興財団
法人所在地	石巻市 成田字小塚裏畑54
設立年月日	平成 1 年 2 月 22 日
代表者職・氏名	理事長 阿部和夫

設立目的・経過
目的：芸術文化事業を展開することにより、広く芸術文化及び地域社会の発展に寄与する。 経過：H1法人設立、市民会館・明芳館・友心館を管理受託。H8文化センターを管理受託。H16スポーツ振興財団と統合。H18～H23市民会館、文化センターの指定管理者。H26～河北総合センター、遊楽館の指定管理者。

3 定款上の事業内容

- (1) 芸術文化活動の普及振興に関する事業
- (2) コミュニティ活動の促進及び支援に関する事業
- (3) 芸術文化活動及びコミュニティ活動の推進を目的とした公共施設での管理運営に関する事業
- (4) その他、目的を達成するために必要な事業
- (5)

4 出資・出捐の状況

資本金・基本財産総額	石巻市出資・出捐額	石巻市出資・出捐割合	市以外の出資・出捐者	市以外の出資・出捐額	市以外の出資・出捐割合
101,099 千円	100,000 千円	98.9 %	個人	1,000 千円	1.0 %
			個人	50 千円	0.0 %
				千円	0.0 %

※出資額が多い順に上位3者（個人は「個人」と表記）を記載

5 役員・職員の状況

(1) 役員状況

	H27期末	H28期末	H29期末
常勤	1	1	1
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	1
非常勤	10	10	10
うち市職員	1	1	1
うち市退職者	2	2	2
計	11	11	11
うち市職員	1	1	1
うち市退職者	3	3	3

(2) 職員状況

	H27期末	H28期末	H29期末
常勤	27	27	28
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	0	0	0
非常勤	2	1	1
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	2	1	1
計	29	28	29
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	2	1	1

※市職員（及び市退職者）とは、市の常勤の特別職及び一般職の者（及びそれらの職にあった者）で、法人の役職員に就任している者をいう。

6 経営理念・方針

石巻市にふさわしい芸術文化の振興と心豊かな市民生活の形成による地域社会の発展に寄与する公益財団法人の役割を果たす。

平成25年4月1日に公益財団法人として新たにスタートしたが、これまで以上に公共性・公益性が重視されるとともに、さらなる効率的かつ効果的な法人運営が求められる。このような状況下、各種事業を継続的・安定的に展開できるよう常に検討を行いながら、地域や各関係機関との連携をも深め、質の高いサービスの提供に努める。

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

7 中期的な経営目標・事業計画

目標項目・指標	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度期	平成32年度期
事業実施にかか る総集客数	人	目標 計画	6,500	7,000	7,500	8,000	8,200
		実績	9,375	7,956			
目標・指標の説明			主たる目的である芸術文化の普及振興状況をはかる一つ的手段として集客数を掲げるが、目的の達成度合いを人数のみで読み取ることは困難であり、実施に至るまでの経過や実施目的及び内容が最も重要視されるものとする。平成29年度は目標を達成したものの、前期を下回る結果となったが、事業規模の大小によって年度ごとの実績に変動が生じるのはやむを得ないことであり、より多くのニーズに応えるための幅広い事業展開が必要と考える。				
目標未達の場合の要因分析							

目標項目・指標	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度期	平成32年度期
		目標 計画					
		実績					
目標・指標の説明							
目標未達の場合の要因分析							

8 主要事業の成果、課題

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
芸術文化の普及 振興事業	指定管理施設及び学校等を活用し、要望に応じた公演を各所で実施した。	大ホール等の補完策として、アリーナ等を活用した事業の企画運営を実施し、公演事業の多様化を図ることができた。震災以前の事業構成に近づく公演の実施が可能となった。	指定管理施設等を活用した芸術文化事業を効率よく実施し、企画事務所等との連携により多様な公演事業を提供し、芸術文化の普及振興を図ることができた。
事業の公共性、 公益性	芸術文化活動の普及振興を図ることを目的に実施するものであり、鑑賞や体験を通じて広く芸術文化の発展に寄与するものである。		

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
震災復興支援並 びにコミュニ ティ活動の促進 及び支援事業	市民との連携事業及び仮設住宅の集会所等における出前公演を開催し、被災された方をはじめ幅広い層に対し、芸術文化事業の鑑賞機会を提供することができた。	芸術文化活動を通じ被災者への復興支援に努めた。仮設住宅から復興住宅等での出前公演にシフトすべきだが、要望等の情報収集を適切に行った上で実施すべきと考える。	優れた公演を地域住民の要望を取り入れて実施したことにより、鑑賞者からの評価を得ることができた。
事業の公共性、 公益性	芸術文化活動の普及振興を図る目的と併せ、当財団が実施する芸術文化活動を通じ、震災からの復興支援を行い、ひいては地域のコミュニティ活動の活性化を図るきっかけづくりに寄与するものである。		

9 市が期待する役割、市意見等 (担当部署記載)

※各情報公開シートの個別項目毎及び決算全体の所感について、別紙様式に記載ください。

第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

団体名称	公益財団法人石巻市芸術文化振興財団
------	-------------------

1 財務諸表（金額単位：千円）

貸借対照表（B/S）	借方（科目）	平成27年度期	平成28年度期	前期増減	平成29年度期	前期増減
	流動資産	67,587	78,437	10,850	81,216	2,779
うち 現金・預金	65,329	76,196	10,867	80,575	4,379	
固定資産	137,223	139,726	2,503	143,695	3,969	
(1) 基本財産	101,083	101,091	8	101,099	8	
(2) 特定資産	33,127	36,575	3,448	39,935	3,360	
(3) その他の固定資産	3,013	2,060	▲ 953	2,661	601	
資産の合計	204,810	218,163	13,353	224,911	6,748	
貸方（科目）	平成27年度期	平成28年度期	前期増減	平成29年度期	前期増減	
流動負債	21,639	22,858	1,219	19,022	▲ 3,836	
うち 短期借入金	0	0	0	0	0	
固定負債	17,953	18,575	622	19,935	1,360	
うち 長期借入金	0	0	0	0	0	
負債合計	39,592	41,433	1,841	38,957	▲ 2,476	
正味財産	165,218	176,730	11,512	185,954	9,224	
指定正味財産	101,083	101,091	8	101,099	8	
うち 基本財産への充当額	101,083	101,091	8	101,099	8	
うち 特定資産への充当額	0	0	0	0	0	
一般正味財産	64,135	75,639	11,504	84,855	9,216	
うち 基本財産への充当額	0	0	0	0	0	
うち 特定資産への充当額	15,174	18,000	2,826	20,000	2,000	
負債・正味財産の合計	204,810	218,163	13,353	224,911	6,748	

正味財産増減計算書	科目	平成27年度期	平成28年度期	前期増減	平成29年度期	前期増減
	一般正味財産増減の部	17,252	11,504	▲ 5,748	9,216	▲ 2,288
経常増減の部	17,252	11,504	▲ 5,748	9,216	▲ 2,288	
経常収益	267,762	266,564	▲ 1,198	253,696	▲ 12,868	
経常費用	250,438	254,988	4,550	244,408	▲ 10,580	
評価損益等計	▲ 72	▲ 72	0	▲ 72	0	
経常外増減の部	0	0	0	0	0	
経常外収益	0	0	0	0	0	
経常外費用	0	0	0	0	0	
一般正味財産期首残高	46,883	64,135	17,252	75,639	11,504	
一般正味財産期末残高	64,135	75,639	11,504	84,855	9,216	
指定正味財産増減の部	9	8	▲ 1	8	0	
指定正味財産増減額	9	8	▲ 1	8	0	
指定正味財産期首残高	101,074	101,083	9	101,091	8	
指定正味財産期末残高	101,083	101,091	8	101,099	8	
正味財産期末残高	165,218	176,730	11,512	185,954	9,224	

（※）負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。

※財務諸表を添付すること。

第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

キャッシュ・フロー計算書（C/S）	区分	平成27年度期	平成28年度期	前期増減	平成29年度期	前期増減
	事業活動によるキャッシュ・フロー	18,417	13,079	▲ 5,338	12,137	▲ 942
	事業活動収入計	267,589	264,455	▲ 3,134	253,278	▲ 11,177
	事業活動支出計	▲ 249,172	▲ 251,376	▲ 2,204	▲ 241,141	10,235
				0		0
				0		0
				0		0
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 18,037	▲ 3,448	14,589	▲ 5,523	▲ 2,075
	投資活動収入計	0	2,282	2,282	417	▲ 1,865
	投資活動支出計	▲ 18,037	▲ 5,730	12,307	▲ 5,940	▲ 210
			0		0	
			0		0	
			0		0	
財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	0	0	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
現金及び現金同等物に係る換算差額			0		0	
現金及び現金同等物の増減額	380	9,631	9,251	6,614	▲ 3,017	
現金及び現金同等物期首残高	45,569	45,949	380	55,580	9,631	
現金及び現金同等物期末残高	45,949	55,580	9,631	62,194	6,614	

（※1）支出は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

（※2）負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

2 市による財政・金融支援等（金額単位：千円）

区分	平成27年度期	平成28年度期	前期増減	平成29年度期	前期増減
補助金（交付金・助成金・負担金）	0	0	0	0	0
事業費補助金（交付金・助成金・負担金）			0		0
管理費補助金（交付金・助成金・負担金）			0		0
委託料及び指定管理料	246,458	239,182	▲ 7,276	232,096	▲ 7,086
借入金（期末残高）	0	0	0	0	0
短期借入金			0		0
長期借入金			0		0
出資・出捐（期末時）			0		0
債務保証額（期末残高）			0		0
損失補償額（期末残高）			0		0
その他の財政支援・優遇措置（税、使用料、手数料の減免等）			0		0
			0		0
			0		0

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。

※財務諸表を添付すること。

情報公開シートⅡ補足資料

法人名：公益財団法人石巻市芸術文化振興財団

1 貸借対照表に関する補足

(1) 総括分析

資産総額は前年比6,748千円増の224,911千円である。正味財産は総体で前年比9,224千円増の185,954千円となっており、前期と同様に健全な経営状況である。

(2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容	変動要因
流動資産	前年比2,779千円の増額	芸術文化事業の公演規模が、前年と比較し縮小したことにより、公演料が減額したこと等による。
流動負債	前年比3,836千円の減額	年度の終盤に芸術文化事業の実施がなかったことにより、公演料等の未払金が発生しなかったこと等による。
一般正味財産	前年比9,216千円の増額	芸術文化事業の公演料等の減額（委託費▲9,782千円）等による。

2 損益計算書又は正味財産増減計算書に関する補足

(1) 総括分析

経常収益は、前年比12,868千円減額の253,696千円であり、その主な要因は、指定管理事業収益の減額（▲7,982千円）、芸術文化事業の入場料収益の減額（芸術文化事業の事業規模の変動、▲3,902千円）によるものである。

経常費用は、前年比10,580千円減額の244,408千円であり、その主な要因は、芸術文化事業が前年と比較し小規模な公演となったため、公演料等（委託費▲9,782千円）を減額したことによる。また、指定管理業務においては、気候の影響（例年にない寒暖差）及び原油価格の高騰等による光熱水料費（3,949千円）及び燃料費（1,094千円）の増額があったが、人事異動（中堅職員の退職）による、給与・手当・福利厚生費（▲3,485千円）の減額分があったため費用が抑制された。

その結果、収益は前年と比較し減額となったが、プロパー職員による効率的な施設運営と管理コストの削減により費用も抑え、利益として9,216千円（一般正味財産増減額）を計上している。

(2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容	変動要因
経常収益	前年比12,868千円の減額	指定管理事業収益の減額（▲7,982千円）、芸術文化事業の入場料収益の減額（▲3,902千円）によるものである。芸術文化事業においては、事業規模の変動により前年度との差が生じた。

経常費用	前年比10,580千円の減額	芸術文化事業が前年と比較し小規模な公演となったため、公演料等（委託費▲9,782千円）が減額したことによる。また、指定管理業務においては、気候の影響（例年になく寒暖差）及び原油価格の高騰等による光熱水料費（3,949千円）及び燃料費（1,094千円）の増額があったが、人事異動（中堅職員の退職）により、給与・手当・福利厚生費（▲3,485千円）の減額等があった。
一般正味財産期末残高	前年比9,216千円の増額	芸術文化事業の実施内容に変動があったため、その規模が縮小したことにより費用が抑制された。この年度間の差は、公演実施のタイミング、調整により生じる変動であり、市民のニーズに対応するための事業運営を中長期的に計画する上ではやむを得ないものと考えられる。

3 キャッシュフロー計算書に関する補足

(1) 総括分析

事業活動収入については、指定管理事業収入の減額、芸術文化事業の入場料収入の減額等により、前年比11,177千円減の253,278千円となった。事業活動支出については、芸術文化事業において、前年と比較し公演規模が縮小したため、委託費（公演契約料）等が減額した。また、指定管理事業の経費においては、光熱水料費及び燃料費等の増額（気候の変動、原油価格の高騰等）と、人件費の減額分（中堅職員の退職等）により費用が抑制された。これにより、支出総体としては前年比10,235千円増の241,141千円であった。

投資活動収入においては、退職給付引当資産取崩収入が、前年比1,865千円減額の417千円であった。投資活動支出は、特定資産取得支出2,000千円、退職給付引当資産取得支出1,777千円、固定資産取得支出2,146千円、その他の投資活動支出17千円を計上し、前年比210千円減の5,940千円であった。

その結果、収入は前年と比較し減額となったが、プロパー職員による効率的な施設運営と管理コストの削減により支出も抑え、利益として6,614千円（現金及び現金同等物期末残高）を計上している。

(2) 数値が変動した区分及びその要因

項目	変動内容	変動要因
事業活動	前年比942千円の減額	事業活動収入は、指定管理事業収入の減額（▲7,982千円）、芸術文化事業の入場料収入の減額（▲3,902千円）等による。事業活動支出については、芸術文化事業において、前年と比較し公演規模が縮小となったため、委託費（公演契約料）等が減額（▲9,782千円）、指定管理事業の経費については、光熱水料費及び燃料費等が増額（気候の変動、原油価格の高騰等、5,043千円）と、人件費の減額（▲3,485千円）があった。収支差額は、前年比942千円減額の12,137千円であった。

投資活動	前年比2,075千円の減額	投資活動収入の減額は、退職給付引当資産取崩収入の減額(1,865千円)による。投資活動支出の内訳は、特定資産取得支出2,000千円、退職給付引当資産取得支出1,777千円、固定資産取得支出2,146千円、その他の投資活動支出17千円によるものであり、前年比210千円増額となった。 収支差額は、2,075千円減額の▲5,523千円となった。
現金等の増減額	前年比3,017千円の減額	事業活動、投資活動とも収支差額が、前年と比較し減額したことによる。

4 市による財政・金融支援等に関する補足

(1) 市からの補助金等の交付状況

補助金等の名称	補助金額(単位：円)	補助金の使途

(2) 市からの委託業務等(指定管理含む)の状況

委託業務の名称	委託料(単位：円)	委託業務の内容
震災復興文化芸術事業業務	14,040,000	震災復興文化芸術事業業務
河北総合センター管理運営業務、多目的ふれあい交流施設管理運営業務	189,829,000	指定管理業務
ささえあい拠点センター管理運営業務	28,226,596	ささえあい拠点センター管理運営業務

(3) 税、使用料、手数料等の減免の状況

減免されている税目等名称	減免額(単位：円)	減免理由

市が期待する役割、市意見等（別紙）

法人名：公益財団法人石巻市芸術文化振興財団

担当部署名：教育委員会生涯学習課

1 第三セクター情報公開シートⅠ（PDCAサイクルシート）に対する意見

（1）中間的な経営目的・事業計画

平成26年度期より河北総合センターおよび遊楽館の指定管理者として、芸術文化の普及振興に関する事業を展開し、前期同様に目標を上回る実績を示している。平成29年度は目標を達成したものの、前期を下回る結果となったが、事業規模の大小によって年度ごとの実績に変動が生じるのはやむを得ないことであり、より多くのニーズに応えるための幅広い事業展開が必要と考えられる。

（2）主要事業の成果、課題

指定管理者として施設の管理運営を実施するとともに、管理施設を活用した芸術文化事業を効率よく展開でき、鑑賞者に好評を博したこと、また、管理施設に留まらず、学校等を活用した事業を実施することで、芸術文化活動の普及振興に寄与しているといえる。

また、復興支援事業については、仮設住宅から復興住宅等へ居住地の変化や、支援の先細りが生じるものと予想されるので、継続性を図りつつもニーズに対して柔軟に対応することが望ましいと考えられる。

2 第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）に対する意見

（1）貸借対照表

平成26年度期より指定管理事業を実施したことにより、震災後は不安定であった経営方針が定まったことで、平成29年度期も引き続き利益を計上している。これは、財団設立以来培われてきた運営ノウハウを活かし、効率的な運営が図られたことによるものであり、大変良好な経営状況であると判断する。

（2）損益計算書又は正味財産増減計算書

平成29年度期においては、震災以前からの指定管理業務の経験を活かし、効率のよい運営が図られた。その結果、施設管理コストの削減等による費用の減額から利益が生じ、良好な経営状況と判断する。

(3) キャッシュフロー計算書

適正な管理状況にあると考えるので、今後とも安定した経営を期待する。

(4) 市による財政・金融支援等

3 法人に対し市が期待する役割等（担当部署所感）

平成元年の設立以来一貫して芸術文化の振興を担い、公共施設の指定管理等を通して、効率的、安定的な運営に取り組んでいる法人であるが、東日本大震災以降の厳しい経営状況の中、市民会館および文化センターの指定管理ができなくなり、法人は収入のない中で事業展開せざるを得なかった。

このような中、内部留保の充当や職員の給与削減等による努力に加え、仮設住宅集会所の管理および舞台管理等の受託業務を実施し、平成25年度期は良好な経営状況に回復した。平成26年度期からは河北総合センターと遊楽館の指定管理業務の効率的な運営により利益が生じており、今後とも安定した経営状況が維持されることを期待する。